

第28回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当学会の活動に顕著な貢献をした者に贈る。



中井 学 君

(株式会社神戸製鋼所
素形材事業部門
大安製造所 鋳鍛開発室
シニアプロフェッショナル)

中井学君は1989年に株式会社神戸製鋼所へ入社以来、主に展伸用アルミニウム合金の開発に従事してきた。目標とする材料特性を達成するために必要なミクロ組織を明確化し、それを実現する合金組成や製造工程を設計するという一貫したアプローチを行った。その成果として、耐損傷許容性合金の開発においては、破壊靱性や疲労亀裂伝播速度とミクロ組織要素との関係を明らかにし、2024合金に比べて損傷許容性の高い「2x24」合金を開発し、航空機の機体寿命を約2倍に伸ばすことに成功した。また、高耐熱性アルミニウム合金では、 Ω 相の析出組織制御により、従来よりも高温域で使用可能な「KS2000」合金を開発し、自動車エンジンや真空ポンプ等に適用された。さらに、高強度・高耐食性鍛造用6000系合金では、ミクロ組織の制御により高い耐力と耐食性を両立した「KD610」合金の実用化を推進した。これらの成果ならびに業績は、材料の軽量化や長寿命化、燃費向上によるCO₂排出削減にも寄与し、また講演大会や研究論文を通じて広く公開され、第3回軽金属躍進賞（2004年度）を受賞するなど、高く評価されている。

軽金属学会においては、研究部会の部会員・副幹事、講演大会やシンポジウムの座長、ポスター審査員、編集委員会委員、投稿論文の査読など数多く務め、学会の発展に大きく貢献してきた。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。